



## 子供たちの、確かな成長に向けて



梅雨の合間をぬって元気にはしゃぐ子供たちの声がプールから聞こえてきます。1学期も残すところ、登校する日は10日です。暑かったり涼しかったりと安定しないが続いていますが、体調管理に気を付けて、元気に夏休みを迎えたいものです。

さて、子供たちに、「勉強は生活に役立っているか」ということについて考えてもらいました。

以前は、勉強とは知識を身に付けることと考えられていましたが、知識がたくさんあればよかった時代は終わりました。

算数で学習している図形を材料にして、子供たちに、「なぜ、マンホールのふたは丸い(円)形をしているのか。」という問いかけてみました。話の中では、他にも三角形や長方形のふたを使って実演してみました。

丸い形(円)以外は、置き場所を選ばないと、穴の中に落ちてしまいますが、丸い形(円)ならどんな置き方をしても絶対穴の中に落ちませんでした。これは「円の性質」を上手に生活に生かしている例と言えます。

その他にも、マンホールのふたが円の形をしていることの利点についても話をしましたが、これとは逆に、円以外の形の方がいいものも世の中にはあることも説明し、どんな形がどんな時に生活に役立っているかについては、自分で考えてみようという問いかけを

して終わりました。

算数の勉強が、学校の中で計算や面積を求めることだけで終わらずに、日常生活の中でも役立っていることや、生活の中のさまざまな場面で、いろんなことを判断する時の考え方にも、理科や社会科、国語などでの学校での勉強が役立っているということに気付いてもらいたいと考えています。算数に限らず、今の大人が学校で習った時の勉強の進め方とはだいぶ違ってきています。正しい答えを出すだけでなく、「どうしてその答えに至ったのか自分の考えを説明させる活動」が増えています。また、題材によっては、正解が必ずしもなく、どの考え方がよりよいのかを選択するというものもあります。

そして、どの教科でも、知っていること、できることを使って、新たな知識を生み出すことができると子供を育てようとしています。学校では、勉強したことが身近で使われていることに気が付き、勉強することが生活の役に立っていることを実感し、学校を卒業してからも学び続ける子供を育てたいと考えています。私も、NHKの番組キャラクター「チコちゃん」に叱られないように身の回りの「？」を追求していきたいと思えます。

**ご協力ありがとうございました。**

6月5日(水)に実施された磯遊びでは、ご多用の中、多数の保護者の皆様、ボランティアの皆様にご支援、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

おかげさまで、子供たちは、楽しみながら、磯の生き物と触れ合うこと



ができました。

また、磯遊び終了後に、砂浜の清掃を行いました。今回の磯遊びについては、6月12日茨城新聞に紹介記事が掲載されました。

### 学校評議員会・学校関係者評価委員会を開催

6月13日(木)に令和元年度第1回学校評議員会・学校関係者評価委員会が開催されました。

#### 学校評議員

- ・勝村 一雄様(東地区功労保護司)
- ・磯崎 正一様(平磯自治会副会長)
- ・川崎 誠様(平磯保育園長)
- ・檜山美穂子様(主任児童委員)
- ・根本 礼子様(PTA会長)

#### 学校関係者評価委員

- ・根本 正徳様(平子連副会長)
- ・磯崎 身幸様(PTA副会長)
- ・大和田明美様(学童クラブ指導員)

今年度は、上記の方々には委員を委嘱させていただきました。どうぞ、よろしく願いいたします。

学校評議員、学校関係者評価委員の方々には、授業を参観していただき、本校の学校経営や子供たちの生活等について、ご意見をいただきました。特に、人を思いやる心の育成や施設の整備などについて、ご指摘をいただきました。今後、こうしたご意見を子供たちの指導に生かして参ります。

